

平成24年度水道事業会計の決算状況

私たちの日常生活において、水は欠かせないものであり、水道は生活を支えるライフラインの一つです。

市は、安全で良質な水道水を安定的に供給するため、市民の皆さんからいただく水道料金を主な財源として、水道施設の整備や維持管理などを行っています。

今号では、平成24年度水道事業会計の決算状況をお知らせします。

給水の状況

給水人口	50,187人
給水戸数	22,294戸
年間給水量	4,113,517m ³ (1日1人当たり平均225ℓ)
平均配水量 (1日当たり)	13,168m ³

水道事業は、地方公営企業法に基づき地方自治体が経営する企業として運営されています。そして、企業の経営成績、財政状況を明らかにするため、会計制度は企業会計方式を採用しているほか、事業に必要な経費は経営に伴う収入（水道料金収入）をもって充てるという独立採算制を原則に経営を行っています。

このため、事業の運営に当たっては、本来の目的である公共の福祉を増進するとともに、常に効率的な事業運営を図り、企業の経済性を発揮することが求められています。

現在はもちろん、将来に持続可能な水道とするためには、事業運営基盤の強化を図り、安全・安心な給水体制を確保する必要があります。

水道事業会計の概要

収入と支出の概要

◎収益的収支

収益的収支とは、水をつくりご家庭などにお届けするための費用などの収支を表したものです。

収入合計は、予算の9億755万円に対し決算は9億1千702万円で947万円の増となりました。

一方、支出合計は、予算の8億5千89万円に対し決算は7億9千217万円で5千872万円の減となりました。

この結果、収支決算は、1億2千485万円の黒字となりました。

この黒字額については、国などからの借入金今後の元金償還に備えるため減債積立金に6千485万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため建設改良積立金に6千万円を積み立てる予定です。

◎資本的収支

資本的収支とは、浄水施設や配水池、配水管の整備などに使用するための収支を表したものです。

収入合計は、予算の1億1千820万円に対し決算は1億2千46万円で26万円の増となりました。

一方、支出合計は、予算の5億2千194万円に対し決算は5億180万円で2千14万円の減となりました。

この結果、収支決算は、3億8千134万円の不足となりました。

この不足額については、収益的支出のうち現金の支出を必要としない費用の減価償却費など内部留保している損益勘定留保資金などで補っています。

収益的収支

項目	金額
収益的収入	9億1,702万円
営業収益	9億1,680万円
(内給水収益)	8億7,183万円
営業外収益	21万円
特別利益	1万円
収益的支出	7億9,217万円
営業費用	6億7,793万円
営業外費用	1億 550万円
特別損失	874万円
純利益	1億2,485万円

資本的収支

項目	金額
資本的収入	1億2,046万円
企業債	1億 600万円
負担金	1,446万円
資本的支出	5億 180万円
建設改良費	2億4,502万円
企業債償還金	2億5,678万円
不足額	3億8,134万円

財産の状況

貸借対照表は、企業の財政状況を明らかにするため、保有する全ての資産、負債および資本を表示したも

のです。
左の表は、平成25年3月31日現在の水道事業の貸借対照表です。

貸借対照表

区分	金額	区分	金額
固定資産	79億8,643万円	流動負債	1億 2万円
有形固定資産 (建物、配水管、水道メーターなど)	79億8,643万円	未払金 (未払いの債務)	3,778万円
		前受金 (概算払いの水道料金)	4万円
		その他 (下水道料金預り金など)	6,220万円
流動資産	6億6,892万円	資本金	64億 904万円
預金現金	5億5,847万円	自己資本金 (建設改良積立金の取崩額など)	17億2,441万円
未収金 (未納水道料金)	1億 899万円	借入資本金 (企業債)	46億8,463万円
貯蔵品 (たな卸資産)	143万円	剰余金	21億4,629万円
その他流動資産	3万円	資本剰余金 (工事負担金など)	16億2,401万円
		利益剰余金 (減債積立金など)	5億2,228万円
資産合計	86億5,535万円	負債・資本合計	86億5,535万円

借入金状況

安定した水の供給を維持するためには、常に浄水場や配水管などの水道施設を整備しながら、これから施設更新時期を迎える水道施設を計画的に更新していく必要があります。

この整備には、多くの資金が必要となり、手持ちの資金だけでは賅うことができません。そこで、国などから資金を借り入れし、水道料金の一部を返済に充てています。水道事業では、この借入金を『企業債』と呼んでいます。

また、この借入金は、財政的負担の軽減や将来利用する市民にも公平に負担してもらうという目的も含め、長期の計画で返済しています。

平成24年度末現在で企業債の残高は、貸借対照表のとおり46億8千463万円、平成16年度以降減少が続いています。

企業債を給水人口1人当たりには換算すると9万3千343円になります。



水道施設整備の状況

平成24年度に実施した主な工事は、次のとおりです。

区分	工事内容	事業費
送配水管新設工事	幹線となる配水管などを布設し、水道水の安定供給を図るための工事を行いました。	7,225万円
送配水管改良工事	赤水発生の解消や地震などの災害に強い水道施設の整備を図るため、老朽化した配水管の改良(更新)工事を行いました。	4,167万円
送配水管移設工事	道道の工事などに伴い、配水管の移設工事を行いました。	963万円
水道メーター取替工事	計量法で定められている水道メーターの取り替え(8年ごと)工事を行いました。	2,249万円
その他設備工事	浄水場の電気設備の一部の取り替えなどの工事を行いました。	372万円

水道事業の決算状況に関するお問い合わせは

水道グループ

☎ 05-5501

FAX 05-5805

Eメール gyoumu@city.noboribetsu.lg.jp